

# 活動レポート

## 道央技術士委員会

文責：道央技術士委員会 幹事 巻口義博

### 平成 29 年度 施設見学会および技術研修会

#### 1. はじめに

道央技術士委員会では、12月1日(金)に第2回施設見学会と第1回技術研修会を開催しました。

施設見学会は、苫小牧バイオマス発電株式会社にご協力を頂き、木質バイオマス発電所を見学させて頂きました。その後、会員の自己研鑽と相互の技術交流を目的とした技術研修会を開催しました。これらの開催概要について、ご報告いたします。

#### 2. 施設見学会(第2回)

##### (1)開催概要

開催日時：平成 29 年 12 月 1 日  
13:30～15:00

場 所：苫小牧バイオマス発電所  
参 加 者：10 名

##### (2)苫小牧バイオマス発電所の概要

苫小牧バイオマス発電所は木質バイオマス発電所で、三井物産株式会社、株式会社イワクラ、住友林業株式会社、北海道ガス株式会社の4社が共同出資する苫小牧バイオマス発電株式会社が事業主体です。

同事業は、燃料の木質チップを北海道における林地の未利用木材で100%賄い、電力を北海道内に供給する地産地消型のエネルギー事業です。

発電規模は5.9MWで4月28日より営業運転が開始され、固定価格買取制度(FIT)を利用し、発電した電力の全量が北海道ガスに売電されています。

##### (3)施設見学の内容

事務所にて事業内容や発電燃料となる木材、発電プラントなどの概要説明を受けた後、燃料チップヤード、木質バイオマスボイラー棟、タービン発電凍等の発電プラントを見学させて頂きました。

発電プラントは、言うまでもなく巨大で圧倒されました。また、それと同時に、事業自体においても①地産地消再生可能エネルギー安定電源の創出、②未利用木材の継続的な買取等による道内林業活性化、③カーボンニュートラルな再生可能エネルギーの活用、間伐促進に伴う森林のCO<sub>2</sub>吸収能力強化等による地球温暖化対策への貢献などが期待され、スケールの大きな事業であると実感させられました。



株式会社イワクラ HP より  
写真-1 苫小牧バイオマス発電所



写真-2 プラント内での施設見学の様子

### 3. 技術研修会(第1回)

#### (1)開催概要

開催日時：平成29年12月1日

15:30～17:00

場 所：株式会社タナカコンサルタント

参加者：9名

発表①：航空レーザ測深(ALB)の河川への  
適用事例

丸田健司氏 (公財)日本測量調査技術協会  
空中計測・マッピング部会レーザWG

発表②：洪水浸水想定区域図の利活用

巻口義博氏 (株)タナカコンサルタント

#### (2)技術研修会の概要

田中代表による開催挨拶の後、丸田氏、巻口(筆者)の2名より技術発表が行われました。



写真-3 開催挨拶の様子(田中代表)

丸田氏からは、ALB(Airborne Laser Bathymetry)の河川へ適用事例について紹介が行われました。ALBは、Green波長のレーザ光を採用することで水面下の地盤高を取得する技術で、これを用いることで任意位置の断面図作成等が可能となり、河川管理に様々なメリットが生まれる一方、精度を担保するための計測手法など確立すべき事項もあることが紹介されました。巻口(筆者)からは、自身が携わった洪水浸水想定区域図について、作成にあたって留意した点や今後の利活用などの紹介が行われました。

最後に、長谷川幹事長から総評とさらなる会員の自己研鑽・相互交流の促進のため技術研修を継続的



写真-4 技術発表の様子(丸田氏)



写真-5 技術発表の様子(巻口(筆者))



写真-6 総評と閉会挨拶の様子(長谷川幹事長)

に開催していきたいとの決意と期待を込めた挨拶を頂き、閉会いたしました。

#### 4. おわりに

苫小牧バイオマス発電株式会社の皆様には、とても親切に施設見学を対応して頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。